

中国の図書館&書店見てある記（3）

今回は図書館ではなくて、書店を訪れた時の模様をお伝えしたいと思います。場所は杭州の中心部にある新華書店です。新華書店は中国を代表する書店で、各地に多くの店舗を有しており、ネット販売にも力を入れているようです。

店内に入ると街中の喧騒とは打って変わって、とても広く静かな異空間でした。それは日本の大型書店と同じ光景です。中国の書店には今回初めて立ち寄ったので昔の状況は判りませんが、その真新しさから近年に整備されたのだと思われまます。

店内に入ってまず驚いたのは、場所によって立ち読みをしている人の多さです。読みたい本を書棚から手に取るのも困難なほど、ビッシリと人が並んでいるコーナーがありました。私などのように考え方の古い人間には、立ち読みというと後ろめたい気がするものです。今は日本でも大型書店では立ち読みをしている姿が日常的になりましたが、新華書店ではその数が全く違いました。

立ち読みならまだ大人しい方で、何と床に座り込んで読んでいる人も結構見受けられました。しかも堂々と。店員はそれを注意するでもなく、黙認しているようでした。読んでいる人も当然という風で、読書の世界に浸っていました。

更に驚いたのは併設されている喫茶コーナーです。このコーナーは書店内の書棚のすぐ隣にあり、ここで飲み物を注文すれば書棚から好きな本を持って来て、読む事が出来るのだそうです。特に時間制限は設けられていないようで、椅子に座って快適に読書が楽しめるのです。しかも読む冊数には制限が無いようで、一冊読み終えたら次の本というのも可能だそうです。まさに至れり尽くせりの感がありました。図書館と書店が合体したようなこの嬉しいサービスですが、一図書館員としては飲み物がこぼれて本が汚れないのか、老婆心ながら心配してしまいました。

店内では日本の書店でも馴染みの、いわゆる「平積み」もありました。入り口を入った所には、『徳川家康』（山岡荘八著）の中国語訳が山積みされていました。一際目を引いたのは、学習参考書や問題集のコーナーです。そこは種類も量も非常に豊富で、思わず圧倒されてしまいました。このコーナーからも、現在の中国の高まる教育熱が垣間見える思いでした。また、各フロアの要所にはコンピュータが設置されていて、探している本を検索出来るようになっていました。

中国の図書館と書店の表面的な部分を、好奇心に任せてアレコレ見てきました。所変われば、... ですが、中国人の本への執着心や愛着心を強く感じました。これはきっと歴史の重みから来るのではないかと、思った次第です。

ところで皆さんは中国語の本というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか。本学のアジア関係図書館（分館）の書庫に入った方であれば、紙の質が劣ると感じた方もおられるのではないのでしょうか。確かに一昔前までに出版された本はそうでしたが、それも今は昔の話になりました。どれも日本の物と比べて遜色がありません。是非、分館の新着図書コーナーに並んでいる新刊書で確かめてみて下さい。